農業農村整備事業等事後評価地区別結果書

局	名	中国四国農政局
---	---	---------

都道府県名	広島県	関係市町村名	世羅郡世羅町(旧世羅西町)
事 業 名	農道整備事業 (広域営農団地農道整備事業)	地 区 名	^{みょうじん} 明 神
事業主体名	広島県	事業完了年度	平成19年度

[事業内容]

事業目的: 本地区は、広島県の中部に広がる世羅台地の西部に位置する中山間地域である。

> 本地域内には、既設幹線農道として広域農道「世羅地区」が東西に走っているが、 本地区から都市部への輸送ルートは、一部狭小な区間を通過することが必要となり農

産物の輸送に支障を来たしていた。

このため、本農道の整備により農産物の輸送経路の短縮を図るとともに、周辺中山 間地域間の相互交流拡大を図り、また周辺都市(東広島市、広島市)とのアクセスの 改善、通勤圏の拡大による若者の定住化を促進し、都市住民に対しては、農業体験等 を含む交流の場やふれあいの場の提供を図るものである。

受益面積:974ha 受益者数:973戸 主要工事:農道4.3km 総事業費:1,645百万円

期:平成11年度~平成19年度(計画変更:平成16年度)

関連事業:中山間地域総合整備事業 2地区

〔項 目〕

社会経済情勢の変化

(1) 社会情勢の変化(旧世羅西町)

本地域の総人口について、平成7年と平成22年を比較すると20.4%減少し、広島県全体の 減少率6.1%より高くなっている。

平成16年に、世羅町、甲山町、世羅西町が合併して世羅町となっている。

【人口、世帯数】

区分	平成7年	平成22年	増減率
総人口	4, 343人	3, 455人	△20.4%
総世帯数	1, 393戸	1,308戸	△6.1%

(出典:国勢調査)

産業別就業人口については、第1次産業の割合が平成7年の35.3%から平成22年の34.1% に低下しているが、平成22年の広島県全体の3.4%に比べて非常に高い割合となっており、 本地域においては第1次産業が基幹産業の一つとなっている。

なお、平成22年の第3次産業の割合は44.0%で最も高くなっている。

【産業別就業人口】

L	<u> </u>	4			
	区分	平成7年		平成	22年
			割合		割合
	第1次産業	918人	35.3%	562人	34.1%
	第2次産業	850人	32.7%	360人	21.9%
	第3次産業	835人	32.1%	724人	44.0%

(出典:国勢調査)

(2) 地域農業の動向(旧世羅西町)

平成7年と平成22年を比較すると、耕地面積については16.6%減少、農家戸数は25.1%減少している。また、農業就業人口が34.2%減少する中、65歳以上の占める割合が20.3ポイント上昇し、77.1%となり、農業就業者の高齢化が急速に進んでいる。

なお、農家 1 戸当たりの経営面積及び認定農業者数は増加している。

区分	平成7年	平成22年	増減率
耕地面積	978ha	816ha	△16.6%
農家戸数	973戸	729戸	△25.1%
農業就業人口	1, 107人	728人	△34. 2%
うち65歳以上	629人	561人	△10.8%
	(56.8%)	(77.1%)	(20. 3ポイント)
戸当たり経営面積	100a/戸	169a/戸	69%
認定農業者数	0人	115人	皆増

耕地面積、農家戸数は総農家、戸当たり経営面積は販売農家のデータ 農業就業人口は平成7年が総農家、平成22年は販売農家のデータ

(出典:農林水産統計年報、農林業センサス、認定農業者数は平成22年広島県調べ)

2 事業により整備された施設の管理状況

本農道は、管理者である世羅町により草刈りが行われる等、適切に維持管理がされている。

3 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

(1) 農作物の生産量の変化

現況の作物生産を維持する計画であったが、水稲は、生産調整等により、作付面積が減少している。

また、だいこんやはくさいの重量野菜は、高齢農家にとって重労働であるため、いちごやピーマンに比べて、減少幅が大きい。

【作付面積】 (単位:ha)

区分	事業計画	評価時点	
区刀	現況	計画	注)
水稲	834	834	794
だいこん	42	42	36
はくさい	49	49	43
いちご	7	7	6
ピーマン	42	42	41

注)評価時点については、平成22~24年の県平均値を当該地区に換算。

(出典:事業計画書、農林水産統計年報)

(2) 営農走行経費の節減

本事業の実施により、農産物を運搬する車両の大型化や走行速度の向上が図られ、輸送時間の短縮が図られている。

事業実施前は、ライスセンターから市場(広島市)へ出荷するため、県道等(一部車道幅員3.5m程度)を大きく迂回しなければならなかったが、本農道(車道幅員5.5m)が整備されたことにより、距離が6.7km短縮されるとともに、車両の大型化や走行速度が向上し、出荷に係る時間が短縮されている。

(出典:広島県聞き取り)

【ライスセンター→国道375号線(市場出荷)】

レノコハヒンノ	一曲地のう物(ロックの LLI TPJ / A	
区分	事業計	評価時点	
	現況	計画	(平成24年)
運搬車両	1 t トラック	6 t トラック	6 t トラック
	2 t トラック		
走行速度	15km/hr	40km/hr	40km/hr
輸送時間	60分	12分	12分
輸送台数	2, 136台	508台	500台

注)輸送台数については、H24年の生産量を基に算定。

(出典:事業計画書、広島県聞き取り)

4 事業効果の発現状況

(1) 事業の目的に関する事項

①農村環境の改善

本事業により整備された農道とこれに接続する世羅地区広域農道が一体となって形成している路線は、農産物の運搬の利便性を高めるとともに、通勤で利用されるなど、農村環境の改善に寄与している。

また、世羅町の東西を結ぶ「世羅高原ふれあいロード」として地域から親しまれており、南北を結ぶ「フルーツロード」と併せて、世羅町の基幹道路として、観光シーズンには周辺都市住民等が農産物直売所や観光農園等への周遊ルートとしても利用されている。

(広島県聞き取り)

(2)土地改良長期計画における施策と目指す成果の確認

①農地の大区画化・汎用化等による農業の体質強化

周辺地域や周辺都市とのアクセスが本事業の実施により改善されたことや生産者同士が連携して世羅高原6次産業ネットワークを設立(平成11年)したことなどから、直売所や観光農園等の6次産業関連施設の入込客数は事業実施前に比べて77.5%、売上高は40.5%増加するなど農業の体質強化や地域の活性化につながっている。

【6次産業関連施設への入込客数】

区分	平成11年	平成22年	増減率
入込客数	706千人	1,254千人	77.6%
売上高	1,191百万円	1,674百万円	40.6%

(出典:財団法人 地域活性化センターHPより)

※世羅高原6次産業ネットワーク:観光農園、加工グループ、産直市場、集落法人、高等学校、農協等で構成。

(3)事業による波及的効果

本農道は、農道に隣接する「せらにし青少年旅行村」(キャンプ場やアスレチック等があるレクリエーション施設)を基点とした、ウォーキング・サイクリングコースとしても利用されているほか、毎年1月に開催される「世羅西駅伝」においても当該農道の一部がコースとして利用されている等、地域の活性化にも寄与している。

(4) 事後評価時点における費用対効果分析の結果

妥当投資額(B) 4.534百万円

総事業費(C) 1,845百万円

投資効率 (B/C) 2.45

(注)投資効率方式により算定。

5 事業実施による環境の変化

(1) 生活環境

本事業で整備された農道は、農作物の集出荷や通作のみならず、地域住民の生活道路としても利用されており、生活環境の改善により、定住条件の改善にも寄与している。

(2) 自然環境

工事の施工に当たっては、小動物に配慮したアンダーパス(農道の下をくぐる通路)や這い上がり可能な水路を設置したことから、その後のモニタリング結果においては、哺乳類 (テン、タヌキ等)や両生類(カエル等)の移動が確認されるなど生態系が保全されている。

(出典:広島県聞き取り)

6 今後の課題等

本農道の終点に接続する既存町道が一部改良されていないため、より一層の効果発現のために、今後、改良工事を実施する予定である。

また、より多くの人に利用してもらうために、県道から本農道に入る場所に「世羅高原ふれあいロード」や観光農園、直売所等の案内看板を設置するなどの工夫を検討する必要がある

L					
事 後	: 評	価	結	果	・ 農道の整備により、通作・出荷時間の短縮や運搬車両の大型化が進み、営農の効率化が図られている。 ・ 6次産業化に取り組む世羅町の基幹道路となっている「世羅高原ふれあいロード」として地域住民はもとより、多くの観光客にも利用されている。
第三	.者	Ø	意	見	 事業の実施により、周辺地域とのアクセスが改善され、出荷時間の短縮や6次産業関連施設への入込客数の増加などの効果が認められる。 今後、地域の基幹産業である観光農業の振興に資するため、接続する町道の早期改良や案内看板の設置等、地域道路のネットワーク機能の充実に努めることが望まれる。

